

教育・保育の内容並びに子育て支援に関する 全体的な計画

(2021年度版)

理念		心に華を咲かせよう ～全ての人の幸せを願って～								
教育及び保育の目標		心やさしく たくましく ～生涯にわたる人格形成の基礎を培うとともに、子どもの生活を保障し、保護者と共に園児を心身ともに健やかに育成する～								
目指すこども像		★やさしく たくましい子		★自分も人も大切にする子	★発見や工夫を楽しむ子	★自分で考え、自分で行動する子				
教育・保育において育みたい資質・能力	①豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたり、できるようになったりする(知識及び技能の基礎) ②気付いたことやできるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする(思考力、判断力、表現力等の基礎) ③心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする(学びに向かう力、人間性等)			幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり ⑥思考力の芽生え⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現					
年 齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳				
発達の姿	・つかむ、振る、ひっぱる、たたく ・周囲の人やものに興味を示す ・安心できる大人のもとで一人遊びを楽しむ ・視覚、聴覚などの感覚の発達がめざましい ・泣く、笑うなどの表情の変化や体の動き ・喃語などで、自分の欲求を表現する	・歩く、押す、にぎる、こねる、つまむ、めくる、通す ・周囲の人や物に自発的に働きかける ・探索活動が活発になり、いろいろな活動を繰り返す楽しむ ・指さし、身振り、片言などで自分の意志を伝えようとする ・箱の中の物を取ろうとしたり、とびらの開閉をする ・親指と人差し指で小さなものをつまむ ・拍を感じながら歌う	・基本的な運動機能や指先の機能が発達する ・色や形、大小を比較したり、分類したりして共通点を見つけたり違いに気付いたりする ・自我が芽生え、自己主張が強くなるため、友達とのぶつかり合いが見られる ・自分の意志や欲求を言葉で表現できるようになる	・基本的な運動機能が伸び、それに伴い食事、排せつ、衣類の着脱などもほぼ自立できるようになる ・話し言葉の基礎ができ、盛んに質問するなど知的興味や関心が高まる ・自我の拡大から、充実への展開を遂げる ・対人関係において、自己主張をもちながら他者を受容する力をもつ	・全身のバランスを取る能力が発達し、体の動きが巧みになる ・自然など身近な環境に積極的に関わり、様々な物の特性を知り、それらとの関わり方や遊びを体得していく ・想像力が豊かになり目的をもって行動し、作ったり描いたり、試したりするようになる ・感情が豊かになり、身近な人の気持ちを察し、思いやりをもって接する	・基本的生活習慣が身に付き、運動能力がますます伸びる ・遊びを発展させるため、自分たちでまわりをつくる ・相手を許したり、異なった思いや考えを認めたりといった社会生活に必要な基本的な力を身に付けていく ・自分の経験したことや感じたことを表現する				
重 点	安心安全な環境のもと、保育者の愛情豊かで応答的な関わりを通して、人への信頼感を育む	安心できる環境のもと、自分でしようとする気持ちを受け止めてもらいながら、意欲的に活動する	友達と共に過ごす心地よさを感じ、一緒に楽しく過ごすためのきまりを守ろうとする	友達と関わりながら、伸び伸びと体を動かして遊び、充実感を味わう	友達と一緒に活動する楽しさを味わい共感したり葛藤したりする中でお互いの思いに気付き、思いやりの気持ちをもつ	友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見出し、工夫したり、協力したりして、充実感を味わう				
養護	生命の保持	・生理的欲求の充実と健康増進を図る	・生活リズムの形成を促す	・適度な運動と休息を充足させる	・基本的生活習慣の確立を目指す	・運動と休息のバランスと調和を図る	・健康・安全への意識を高める			
	情緒の安定	・応答的な触れ合いを大切にする ・情緒的な絆を形成する	・温かなやり取りによる心の安定を図る	・自我の育ちを受容し共感する	・心身の調和と安定により、自信を持って行動できるように援助する	・自分を肯定する気持ちと他者を受容する気持ちを育む	・主体性を持ちながら集団の中で課題を解決したり、周囲の想いを受け止めたりしながら、調整する力を育む。			
乳児期の園児の保育に関するねらい及び内容の三つの視点	と健やかに伸び伸び	・身体感覚が育ち、快適な環境に心地よさを感じる ・伸び伸びと体を動かし、はう、歩くなどの運動をしようとする ・食事、睡眠等の生活のリズムの感覚が芽生える	満一歳以上の園児の保育に関するねらい及び内容の五領域	健康	・保育者の愛情豊かな受容のもとで、安定感を持って生活する ・全身を使う遊びを楽しむ ・身の回りを清潔に保つ心地よさを感じ、その習慣が少しずつ身に付く	・食事や午睡、遊びと休息など、生活のリズムが形成される ・保育者の助けを借りながら、衣類の着脱等を自分でしようとし、できたことに喜びを感じる ・全身を使う遊びを楽しむ	・健康な生活リズムを身に付ける ・身の回りを清潔にし、生活に必要な活動を自分でしようとする ・様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む	・保育者や友達と触れ合い、安定感をもって行動する ・自分の身体に関心を持ち、異常を感じたら、自ら保育者に知らせる	・病気の予防などに必要な活動を進んで行う ・危険な場所や行動がわかり、災害時などの行動の仕方がわかり、安全に気をつけて行動する	
	身近な人と気持ちよく通じ合う	・安心できる関係の下で、身近な人と共に過ごす喜びを感じる ・身体の動きや表情、発声等により、保育者と気持ちを通わせようとする ・身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感が芽生える		人間関係	・保育者の受容的、応答的な関わりの中で、欲求を適切に満たし、安定感を持って過ごす ・保育者や友達との安定した関係の中で、共に過ごす心地よさを感じる	・保育者の仲立ちにより、友達との関わり方を少しずつ身に付ける ・生活の中できまりがあることに気付く ・生活や遊びの中で、年長児や保育者の真似をしたり、ごっこ遊びを楽しんだりする	・保育者や友達と共に過ごすことの喜びを味わう ・自分でできることは自分でする ・楽しく生活する中できまりの大切さに気付き、守ろうとする	・自分で考え、自分で行動する ・友達との関係を深め、思いやりをもつ ・友達よさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう ・よいことや悪いことがあることに気付き考えながら行動する	・友達と共通の目的を見出し、工夫したり、協力したりして、物事をやり遂げようとする気持ちをもつ ・友達と喜びや悲しみを共感し合う ・自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く	
		身近なものに関わり		・身の回りのものに親しみ、様々なものに興味や関心をもつ ・見る、触れる、探索するなど、身近な環境に自分から関わろうとする ・身体の諸感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する	環境	・探索活動を通して、見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにする ・玩具、絵本、遊具などに興味を持ち、それらを使った遊びを楽しむ	・形・色・大きさ・量などの物の性質や仕組みに気付く ・自分の物と人の物の区別や、場所的感覚など、環境を捉える感覚が育つ ・身近な生き物に気付き、親しみをもつ	・自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さに気付く ・生活の中で、様々な物に触れ、発見を楽しんだり、考えたりし、それを取り入れて遊ぶ	・自然などの身近な事象に関心をもち、発見を楽しんだり、考えたりし、それを取り入れて遊ぶ ・身近な物に興味をもって関わり、比べたり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ	・動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする ・日常生活の中で、物の性質や数量、標識や文字などに関心をもつ
					言葉	・自分の声や簡単な言葉で気持ちを表そうとする ・生活に必要な簡単な言葉に気付き、聞き分ける ・親しみを持って日常生活の挨拶に応じる	・絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣したりして遊ぶ ・保育者とごっこ遊びをする中で、言葉のやりとりを楽しむ ・保育者を仲立ちとして、友達との言葉のやり取りを楽しむ	・保育者や友達の言葉や話に興味をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする ・親しみをもって日常の挨拶をする	・保育者や友達との会話を楽しみ、伝え合う喜びを味わう ・人の話を注意して聞き、相手にわかるように話す ・いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする	・生活の中で、必要な言葉がわかり、使い、保育者や友達と心を通わせる ・絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わう ・文字などで伝える楽しさを味わう
	表現	・水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ ・音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しむ ・様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどを感じて楽しむ		・歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しむ ・保育者の話や、生活や遊びの中での出来事を通して、イメージを豊かにする ・経験したことを自分なりに表現する	・生活の中で様々な音、形、色、手触り動きなどに気付いたり、感じたりして楽しむ ・いろいろな素材に親しみ工夫して遊ぶ ・音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりすることを楽しむ	・感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、作ったりして楽しむ ・音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりすることを楽しむ	・感動したことを伝え合う楽しさを味わう ・かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりする ・自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりする楽しさを味わう			

年 齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
遊 び	・見たり、触れたり、握ったりすることを楽しむ。 ・引く、押す、振る、はがす、たたく遊びを好む	・登る、降りる、跳ぶ、くぐる、押す、引っ張る遊びを好む ・いじる、たたく、つまむ、転がす等の手指を使う遊びを楽しむ	・全身を使う運動を取り入れた遊びを好む ・水、砂、土遊びを楽しむ ・巻く、かける、分ける、ねじる、裏返す、たたむなど、より細かな手の動きを使った遊びを好む	・おままごとを数名で楽しむ ・全身や遊具を使った遊びを好む ・様々な用具、材料に触れ、それを使って遊びを楽しむ	・大人と一緒に友達と簡単なルールのある遊びを楽しむ ・役割のある遊びを好む ・身近な遊具や用具を使い、十分に体を動かして遊ぶことを好む	・友達とルールのある遊びを楽しむ ・文字、数、言葉遊びを楽しむ ・競争的な遊びを楽しむ ・楽器、劇遊び、運動遊びなどいくつかの身体知的機能を同時に働かせる遊びを好む
配慮すること	・発育に応じて遊びの中で体を動かす機会を十分に確保し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにする ・多様な感情を受け止め、温かく受容的・応答的に関わり、一人一人に応じた適切な援助を行う（喃語や指差しに優しく目を見てこたえる） ・楽しい雰囲気の中で保育者との関わり合いを大切にし、ゆっくりと優しく話しかける ・集中して見つめたり、試したりしている時には、静かに見守る	・「自分で」という気持ちを尊重し、温かく見守るとともに、愛情豊かに、応答的に関わり、適切な援助を行う ・思い通りにいかない場合等の子どもの不安定な感情の表出については、受容的に受け止めるとともに、そうした気持ちから立ち直る経験や感情をコントロールすることへの気づきにつなげていけるように援助する	・自我の育ちを見守るとともに、保育者が仲立ちとなって、自分の気持ちを相手に伝えることや、相手の気持ちに気付くことの大切さなどを丁寧に伝える ・遊びを通して感覚の発達が促されるように玩具等を工夫する ・片言から、二語文、ごっこ遊びでのやり取りができる程度へと、大きく言葉の習得が進む時期であることからそれぞれの子どもの発達の状況に応じて、遊びや関わりを工夫する	・遊びの中で、周囲の環境と関わり、次第に周囲の世界に好奇心を抱き、その意味や操作の仕方に関心をもち、物事の法則性に気付き、自分なりに考えることができるようになる過程を大切にする また、他の子どもの考えなどに触れて新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい、自分の考えをよりよいものにしようとする気持ちが育つようにする	・子どもが自ら周囲に働きかけることにより多様な感情を体験し、試行錯誤しながら諦めずにやり遂げることの達成感や、前向きな見通しをもって自分の力で行うことの充実感を味わうことができるように、子どもの行動を見守りながら援助を行う ・子どもの表現しようとする意欲を受け止めて、子どもがその子らしい様々な表現を楽しむことができるようにする	・一人一人を生かした集団を形成しながら人と関わる力を育てていくようにする その際、集団生活の中で、子どもが、自己を発揮し、保育者や他の子どもに認められる体験をし、自分のよさや特徴に気づき、自信を持って行動できるようにする ・子どもが自ら行動する力を育てるようにするとともに、友達と試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにする
遊びを通して主体的・対話的・深い学びが展開できる環境を工夫する						
保健安全	年間目標 ① 健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う ② 子どもの心身の状態を把握し、疾患等の発見・発生予防・事故防止に努め、生命の保持を図る ③ 保健だよりや掲示板を通して、感染情報・予防法・子どもの健康維持について、家庭に知らせ、一緒に取り組む					
食 育	健康な生活の基本としての食を営む力の育成に向け、その基礎を培う ★おなかのすくりズムが持てる子 ★食べたいもの、好きなものが増える子 ★自然の恵みや食べ物に携わる人々に感謝の気持ちを持つ子★一緒に食べたい人がいる子 ★食事づくりや準備に関わる子 ★食べ物を話題にする子					
	・様々な食べ物を見る・触る・味わう経験を通して、自分で進んで食べようとする。	・様々な食べ物を見る・触る・噛んで味わう経験を通して、自分で進んで食べようとする。	・いろいろな食べ物を進んで食べる。 ・友達と一緒に食べる楽しさを味わう。	・様々な食べ物や料理を味わう。 ・身近な人と一緒に食べる楽しさを味わう。	・食事の基本的なマナーを身につける。 ・自然の恵みに感謝し、食事を味わう。	・食を通して、自然の大切さを知り、生産者・調理者への感謝の気持ちを持つ。 ・いろいろな料理に出会い、様々な文化に気づく。
食物アレルギーのある子どもへの対応については、園医等の指示や協力のもとに適切に対応する						
個別発達支援	○配慮を必要とする園児の実態把握を行うとともに、個別の指導計画①②を作成する（短期目標・具体的な手立てを学期ごとに作成し見直しを行う） ○年2回、保護者と懇談し、支援計画の共通理解を行う（個別の指導計画③） ○療育施設、保育支援課と連携し、検査結果等を基に、支援計画の見直しを行う ○個別発達支援委員会を設置する。（年間計画に基づいて、ケース会議、全職員への共通理解、研修会を実施する） ○卒園前に保護者と共に、就学支援シートを作成し、一人一人の成長・発達の歩みを小学校につなげる					
異年齢活動	主に、にじ組の子どもたちと、普段の遊びの中で交流を図る			・年上の子に親しみをもち、一緒に楽しく活動する	・自分ができることを進んで行い、異年齢の友達と仲良く活動する	・生活や遊びなどで、リーダーとしての自覚や誇りを持ち、思いやりやいたわりの気持ちを持って行動する
家庭的保育との連携（0～2歳児）	○大きな集団（本園）との積極的な交流（延長保育・土曜保育）により、集団保育への移行をスムーズにする ○行事交流（誕生会・祭り・プール遊び・運動会・作品展・発表会等）を計画的に行う			に じ 組 活 動		
家庭との連携	○送迎時の保護者と職員の対話 ○連絡帳 ○保育参加・給食試食 ○親子遠足（2歳児） ○子育て相談 ○発達相談 ○活動写真の掲示 ○ホームページブログ ○子どもの育ちが見えるエピソードの伝達 ○日々の連絡 ○個人懇談会 ○園だより ○教育相談 ○動画配信					
小学校との接続	○指導要録の送付 ○行事交流 ○保幼小連絡会議 ○1年生授業参観 ○保育方針冊子送付 ○園だより・学校だよりの交流 ○小学校の施設探検 ○就学に向けて子どもの育ちをつなぐ連絡会 ○就学支援シートの作成 ○小学校の先生					
子育て支援	○子どもとの関わり方・子育ての悩みや不安を気軽に話せる場と雰囲気作り ○一時保育 ○体験保育（年6回） ○園庭開放（週1回） ○親子リトミック教室（年6回） ○親子運動遊び（年2回）					
地域との連携	○地域民生児童委員・主任児童委員との連携 ○地域のリハビリ事業「ほっこりくらぶ」との交流 ○神明学区福祉委員会との交流 ○ボランティア・中学校職場体験・福祉体験授業の受け入れ ○実習生の受け入れ ○一時避難場所としての防災連携 ○宇治市保育支援課との連携 ○宇治市こども福祉課（家庭相談）及び児童相談所との連携 ○HPIによる園の情報提供 ○園だよりの町内配布 ○宇治市福祉サービス公社広野デイサービスセンターとの交流 ○町内との行事交流 ○地域高齢者向け教室					